

B—50 青インキのしみ抜き試験(第1報)  
—使用薬剤の作用効果について—

武庫川女大家政 ○大窪 侯子  
樺井 博

布地についた青インキしみを次亜塩素酸ナトリウムと  
蓼酸、及びアンモニア水と蓼酸の2種の二浴式洗浄法で  
しみ抜きする場合の使用薬剤の作用効果を測色的に調べ  
てみた。その結果、つぎの傾向を認めた。

1) 次亜塩素酸ナトリウムによる汚染色の消去(洗浄布  
の原白布への明度的彩度的近接)と蓼酸による消去の促  
進

2) アンモニア水による汚染色(暗青色)の灰色化(彩度  
低下)と蓼酸による灰色化の解消(青色の復活—彩度上  
昇)

なお、これらの薬剤の作用とは無関係に

3) よごれ自体の水溶性にもとづく汚染色の淡色化  
の傾向も認められたことはいうまでもない。なお、使用  
薬剤の濃度効果としては、布地によって異なるが、1回の  
二浴処理において綿布の汚染色が白色化する最低濃度は  
NaClO に限って認められ、0.03~0.10% の範囲であつ  
た。NH<sub>3</sub> 水と蓼酸の二浴処理では NH<sub>3</sub> 水の濃度が濃い  
ほど汚染色の淡色化の傾向を認めたが、最大濃度 22%  
としてもなお原白布なみの白さにすることができなかつ  
た。従つてこの場合のしみ抜き法としては反復洗浄効果  
の吟味が残された試験課題となる。